

◎特集2

私たちの暮らしは、
どう変わったのか

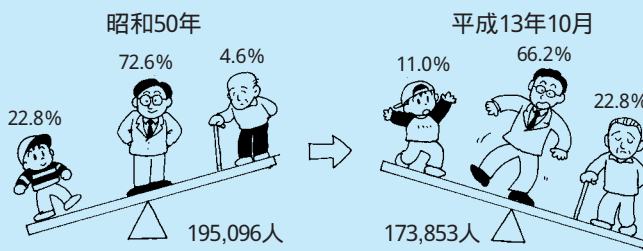
区制が施行されてから三十年。この間、社会情勢は大きな変容を遂げ、それに伴って人々の価値観、ライフスタイルも変化していきました。区制施行当時と現在を比較し、私たちの暮らしはどう変わったのか、数字で読み解きます。

人口

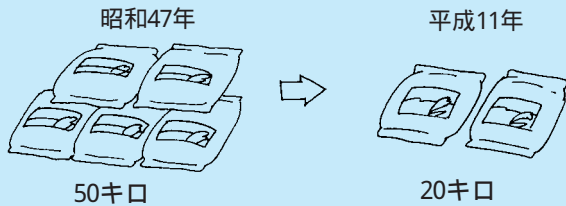


区制施行当時の子供たち

区制施行時、最も人口が多かったのは中央区。その後、徐々に減少していきましたが、平成7年から上昇傾向に転じました。全体に占める年少人口と老年人口の割合は、昭和50年にはそれぞれ22.8%・4.6%だったのが、平成7年の国勢調査で12.3%・13.8%と逆転し、住民基本台帳上では13年10月の時点で11.0%・22.8%に。少子・高齢化の進展を如実に物語っています。



同じ10,000円でも...



昭和47年の物価(全国平均値)は、米10キロ1,990円、牛乳1本26円、たばこ(ゴールデンバット)30円、20インチのカラーテレビ151,000円など。それに対し、大学初任給は50,000円に満たない時代でした。



活気あふれる市場(昭和47年)

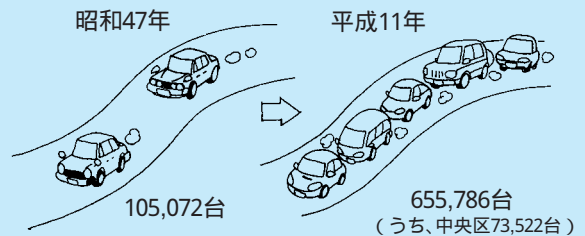
¥物価



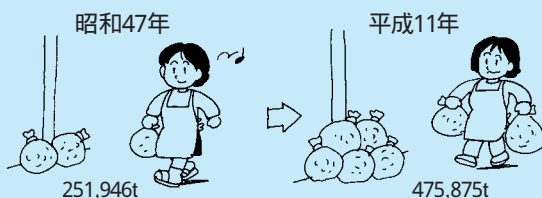
交通安全講習会(昭和50年ころ)

自動車保有台数

乗用自動車の保有台数(全市)は、昭和47年に105,072台だったものが、平成11年には655,786台と6倍以上に。生活の利便性は向上しましたが、交通事故の急増、環境汚染など、自動車中心社会の弊害も。



家庭ごみ処理量(全市)は、昭和47年にごみ収集無料化が始まったことも影響してか、平成11年には約2倍に増加。埋め立て地の確保や環境への負荷が問題となる一方、リサイクルなどの考え方も次第に定着。



集団資源回収(昭和50年ころ)

ごみ